



球仙書道会主宰

松村球仙さん

まつむら・きゅうせん（本名：^{てるあき}照明）1942（昭和17）年生まれ、金屋在住。荒尾市総合美術展実行委員長。熊本県書道展審査員

松村球仙さんは現在約65人の大人を指導しながら、50年以上書道家として活躍を続けています。率先して筆を執り、熱心に指導する姿は、生徒に寄り添い、親身に教えてもらえるので好評です。自身の役目を「生徒の個性を見極めて、生徒に合う書風や筆法を伝えること」と話す松村さん。「流儀に捉われず、自由に良い字を書いてほしいです」

松村さんの書道との出会いは6歳のとき。始めはなかなか上達しませんでした。席書会（郡市の書道大会）で特選を何度ももらうようになり、才能を開花させていきました。書道を専門的に学ぶため、大東文化大学・文学部に進学。多くの書風や筆法に触れ、書道の奥深さを知りました。「気力と体力は使います。けれど、たくさんの書風や筆法を自分のものにするので、表現の幅を広げ、書道の文化を前進させたいと思います」卒業後、松村さんは国語と書道の高校教師として歩み出します。1971（昭和46）年、

仕事の傍ら球仙書道会を設立。定年退職後は書道会の指導を中心に活動してきました。

カラオケが得意で、大会に出場し、テレビに出演したこともあります。「チャレンジ精神を持つことは大切なので、興味を持ったことには積極的に取り組んでいます」

69歳のとき、一念発起して大学の書道教授の免許を取得したのもチャレンジ精神のためです。松村さんのアクティブな精神は書道会にも受け継がれ、会の中に、ダンスサークルまでできました。

「球仙書道会の書風を生徒に引き継いでもらいたいです。秋には、総合美術展があるのですが、生徒と練習を頑張っています。美術展にも多くの作品が寄せられるといいですね」

書道には気力・体力が必要なので、松村さんは毎日朝から歩いて健康づくりをしています。「これからもさまざまな書風を駆使して、見に来てくれる人を魅了する書を書いていきます」。松村さんのチャレンジ精神の炎は燃え続けます。

※筆の持つ趣・書きぶり



1 書道会の懇親会での一コマ。生徒さんとの仲の良さが伝わります。写真中央が松村さん 2 総合美術展へ作品を出品するための指導風景 3 4月に文化センターで行われた球仙書道会 45周年記念展